

葦の根

印

80

利9  
3869  
36





葦の根

印

利9  
3869  
36



特  
日割  
3869  
36

大正七年五月  
室井平藏

春の根初編序  
はるのこころをよめるものあるをたゞしむるは  
雲井よりとるものありしをたゞしむるは  
人情をたゞしむるものありしをたゞしむるは  
や一風をたゞしむるものありしをたゞしむるは  
大正七年五月を折以て記録物を



冠一々客の數も既子や門の佳系  
をゆかりさしは無き處の心景めら  
羅まき若れ根影一々の古く編を  
法以て心業の志をも心業を心業し  
芽ふく若連のそは志をも心業を  
の心業集若く風雅の志をも心業

と母のよは女も心業を心業し  
と心業を心業し心業を心業し  
心業を心業し心業を心業し

井双井笑書

心業

と保十は心業

心業心業心業心業





雲華堂

江戸見立八景

井双庵笑魯撰

折句類 スサキ

卒、破小瘦了四小鯨の割む種

龜年

卒、摺り流しきりりと復不利さけ

墨洗

全五、住居記空の叙乃るよま楽ナ子

佐雪

月

シウツ

全五、正由小夏く出先く妻る冬

智水

九、実美の心内とも原巻の艶吳兄

正倉

九、新乃格子青尾も現か生マ

アソモ





冠り歌 口。出

辛、口をくりし中一蛤の雫の塩

且雪 盃洗

日

辛、出拂とゆき 鹽と 洗立

丸窓 盃洗

杉垣歌 長箱

辛、引寄るはね小唄も長きせる  
辛、蓋もあつくり若お小長カ短カ  
辛、重箱吹くく 借勢も長命古

正窓 燗燗 釜水

樹月庵三萬撰

杉垣歌 長箱

辛、るてこつやが解く性も玉の仮名  
辛、さる下粒棧橋のくま客の碎  
辛、スグきりと骨をあふた客内痛  
百袖居り麻産婦一母のまの配り

燗燗 舟士 徳利 丸窓

日

シウツ

辛、実まの肉とお糸衣の艶又  
辛、燭燗一窓扇をうく妻も坐

正窓 盃洗

冠り歌 口。出



六、口小看板か汁粉と妻出テ  
七、口数も穿ぬ子容小望の功老  
アンモ 徳利

日

六、出るごとくお母一夫平と砂麻相  
七、出拂ッとのねと 鹽と 焼 立  
九、出ると半り居ると猫小ハッ出り  
季友 丸 宏 全

杉山歌 長箱

六、糸も若入師を肉へ長箱古  
七、前縁の文並口返事も長心奴  
関 彌 十 丸

谷泉庵早聴撰

杉山頭 スサキ

六、墨付くさのんま心と灸小蓋  
七、居り癖産婦一母の家の死り  
アンモ 丸 宏

日 シウツ

七、新堀を極本も八日月小猿牙  
八、実名心内とお茶屋の艶笑足  
九、新糸小内の務も妻の世話  
龜 年 正 家 夢 父 関 彌

冠り歌 口。出

六、口小らうく一屋文字の中返り  
煉 糖



卒、口小着板お汁粉と書あてて  
アンモ

日

七十、出く海む本戸千歳と参る風  
福安  
九、出く斗り居るると猶小八ッ尚り  
丸窓

折込歌 長節

卒、重箱明いて浩勢る長命さ  
智水  
卒、末長く箱焼灯もまきまらる縁  
福富  
百軸系も箱入り師を内へ長勢古  
関緒

龜年楽評

九五、知る只の表體部り下結の強  
襟袖

九十、口小うりく一是文字の中返り  
全

百軸 凄いの鳴サ小湯の吹を音を隔く  
季友

季友楽評

九五、出洲、子の来てあまの比引綱  
栄く

九十、仕舞控白粉の物も月の形り  
龜年

百軸 引考る箱小鳴くも長きせり  
正あ

二會目

井双庵笑魯撰

折句題 シハツ



六五、志ある小指をばき小臂のつゝ子  
七十一、性大吞具下戸小指志む子  
七五、静小吞ブウ小子の終イ起せ  
八五、羽子板指り附木織  
今 燦 燦 泉 園 瀧

日 ケカム

五十一、弟降る降り彼岸小江利乃乃  
六十一、紫藤を歩函心喘子望も附合  
六五、菟のむごも子丁種と娘の名  
今 龜 年 山 外

冠り歌 山

五十八、山陸合果起度小粒むかろ菟  
燦 燦

五、山口で焼乃余蔚の尻と酒  
六、山茶花命素小袖暗く洗ひ髪  
九、窓

日 門

六、門下送りあざろ脚も切きぬ妻  
六十一、門下抑く妻たりと焼る妻  
百袖 門下指ひむよの月小巻を子  
毎 士 燦 洗 福 窓

折込歌 松・月

六、目差しの白く小松風窓の月  
六十一、梅月の中愛小逆さ松葉燦  
樹月庵三萬撰  
福 窓



打勺歌 シツ

辛五 志つろりと吞長心望の淡一留  
辛六 性ハ大吞且シ下戸小つし  
辛七 舌の先萬語まゆと囁する子  
百袖 恵キウ(と)第の来るを書持ッ望

日

クカム

菱父  
泉工  
盃洗  
福安

辛、口小袖くく山葵も狗まひ子  
辛、九段くく驚驚も上下の娘分  
辛五 難ぶ長サくくくおえ割ッ掃  
辛、鞍替の智苑小素顔の結ハ髪

岡驪  
菱父  
里久  
丸安

全五 栗や茄子敷よく書も刺へ平

泉工

冠り歌 山

全五、山摺き(儒子も七場取踏へ来ん  
全、山本の他款横足小急ぎ足

龜年  
盃洗

日 門

辛、門旁群集開山の二百年  
辛、門ト多き程勢小妻が舌の肥り

蝶蝶  
奇晁

折込歌 松月

全、目先一の多く小松風窓の月  
全、棹舟の望後小をき松葉煙

丸窓  
福安



谷泉庵早聴撰

杉勺歌 シツツ

辛丑 寝糸登る歌へ 嚙く 芥

一 雀

辛丑 新木のあそびをあそびて 付るが

里 久

辛丑 虫キくと 籠の来るを 妻持ッ望

福 安

辛丑 十三夜をぬく 戸を 机とけ

登 洗

百袖 べり 熊場前の 家業の 妻任せ

丸 宍

日 ケカム

辛丑 口を 嚙き 歌登るの 方向く 嚙え

奇 晁

辛丑 栗も ちんちん 剥き 出た 娘を

丸 宍

辛丑 宗親を 芳園と 嚙み 子中子 附合

兔 年

冠り歌 山

辛丑 山本の 似顔 横見 小しそ ぎ足

登 洗

辛丑 山へ 船切りを 経極 小を せせ

丸 宍

日 門

辛丑 門の 乳く 日向 小向の 坊お 持持

季 友

辛丑 門ト 柱び ちんちん 月小 兔を 子

福 宍

辛丑 門ト 小青 屋猫も 服を 四ふ 一

ア ンモ

杉勺歌 松。月

辛丑 松も 月形が 松葉の 後口 免

丸 宍



五、秋の松急小松皮の月の照り 十九

園纏樂評

九五、お宮も羞む松板の月出波 蝶塚  
九十、舌の先齒垣をゆへ囁き子 豊洗  
百軸、二交目の月小松替る庭の松 菱父

依雲樂評

九五、門下初くおうも稚子の内の着 且雪  
九十、様三ッかもしも縁小結ひ葉 正泉  
百軸、門下多きお桃灯のうげへ嫁 一雀

三會目

井双庵笑尊撰

杉勺歌 七キヤ

五、せんうやまも安店小中の身 洋源  
七、世乃まゝあか帯もやの字の子 龜年

山女歌 ヨサメ

五、呼吸あまも実下小松増多 全  
九、夢の場へ名見し店の前小面撰 十九

冠り歌 里

六、里見懐ふか大も秋屋小集りて アシモ  
七、里枝村をよる来更る袋物 菱父



日 静

六五、静る踊る子つよきふも強て  
九十、静ふお出ぬるよと「勿」の乃

津深 砥子

杉山歌 隠。家

卒、別小家田地を杉山隠居楽  
八十、小女子の隠を杉掛に家看店  
百細 女も、家能ある嫁の隠を尻

菱父 山井 九窓

樹月庵竺三萬撰

杉山歌 セキヤ

六五、世るまきとあふ草もやの子

龜年

全五、扇面(木場)が自筆の夜宿る

全

日 ヨサメ

五十、夜も交と望ふ蛤の目出交イ日  
六十、静のこゝろまさと徳口隠を目出交  
七十、夜もまの産愛おま小めげぬ海  
百細 奇場不乾の子起も目出交の子

福安 全 篠崎 全

冠り歌 里

全、里より夜も静る宿の蒲をま  
九十、里見徳むお大も静る不葉ッ

正島 アンモ

日 静



辛、静ふ心が木戸も女中連 山井

杉垣歌 隠家

辛、子も沙汰能ある嫁の隠を所 丸  
其、情の果が鬼も隠るる方の家根 深住

谷泉庵早穂撰

杉垣歌 セキヤ

辛、狭い中愛へそのと呼吸を色 丸  
辛、世平の辰切り口も沙汰も推しを種 十丸  
辛、世平まごあ分常もやの孝の子 龜年

日ヨサシ

丸

辛、夜更酒四小生千の女郎焼て 丸  
辛、横小舟を足柄のくも目立たる 佐雪

冠り歌 里

辛、里見懐もかたも初屋小集ッて アンモ  
九、里親の秋伽産婦の納る血 佐雪

日 静

辛、静ふ心出ぬるようも刻の左 砥子  
八、静ふあんよ雷りごとよりそ 十丸

杉垣歌 隠家

六、指違ふ家鴨も眠とかくを嫁 アンモ



百抽 弟履隠しのかは具破具不すねて家 十九

山井永作

九五 挿ふ鏡照るまの刷毛洗ひ 汝住  
九十、身もゆか能ある海のうくを尻 丸定  
百抽 夜も更さゆふ始の目出交い日 福定

九永作

九五 静とくくをる娘のほづと打 丸定  
九十、里又の名残り成田く庚り足 季友  
百抽 里田さちちつて嫁客あつた アソモ

四今日

十

井双庵笑書撰

抄句歌

エカ仔

辛、小場枝が可巻くくこの指を出子 里久  
半、おんろく火掛る口柔も今出る子 龜年  
全五、茶のまぶら中縁で居るも土方 飯室  
百抽 小湯立片寄あがく入る 種 汝住

日

セイム

六十五、是非今歌をよま茶碗の息香 津原  
九十、千次弟小糸心も首を結をせ 汝住

冠り歌

百



卒、百の井路次細い羅めー  
七十、百万遍の膝ふ子の可也いよ  
浄源  
重洗

日 弟

卒、弟師を抜湯へ妻の意き足  
卒、弟枯く隅田小骨を以於扇  
九十五、弟津戻りの足利小掉 枯く  
疎地  
龜年  
十九

樹月庵竺萬撰

新句歌 工カ仔

卒、小揚枝が可也いよ太の根を吐子  
六十六、あまらる眼赤くお波心小存けの子  
王久  
舟士

十一

八十五、小錫立ちを考了妻の麻汗を  
全

日 セイムラ

七十五、世のいぶ居子あり出迎ひ嫁  
九十、情の出居残り 別世江云の子  
百袖 せく、白粉もちち甘ね逢ひの子  
龜年  
重洗  
後宮

冠り歌 百

五十五、百中二寸山が巾 矢場花棠  
六十、百十日定紋鑑小魚のせく  
七十、百助のくよ奥山小自ふ葉や  
九十五、百歩程も約下結ぶと意く哀  
季友  
西宮  
津深  
智水



日 草

八十、草脚を抜湯へ書のとまぎさ

蝶塚

谷泉庵早穂撰

お旬歌 コカ仔

五十一、小揚枝が可電いふふの根を虫ス子

星久

七十二、山産虫務もどき一節剣子

津原

七十三、このく漬の田い小ぢ小癖をびれん

山井

九十四、小銅壺へりきある火も点ぐ婿

アノモ

百細小紋帳傷くまらぶ干ぬ嵐と茶

山井

日 セイムラ

六十五、扇歌がりの濡る来る結び髪

丸宏

六十六、狭い道へいも巨壺小向ク戸柳

魚洗

冠り歌 百

六十七、百十日定紋結小魚のせき

正名

六十八、百の井跡次細い糶め

津原

日 草

六十九、草紙まじ星柱の突も情出

菱交

お旬歌 玉川

七十、東玉川風寒くをのりせき

山井

アノモ楽評



九五、小楊枝が可也夕々志の根を虫の子  
九六、あんな火柳の口葉も今出る子  
百抽 せく白粉もあつらぬ遠いの子  
里久 龜年 福室

慶父樂評

九五、百変小妻の足を引鳴子乃  
九六、子抱う深川ふぶのほけ板がら  
百抽 茶臥を扱湯へ妻のらそぎ足  
十九 龜年 蝶塚

入令目

井双庵笑書撰

折白歌 三ナカ

六六、仕舞まゝの礼も子の送と多地  
六七、祝よと形も小さく擔と荷  
六八、仕舞持あがり日向一母と孫  
六九、沙利砂を志あり子の啼く舌  
百抽 志くむ程嘗と座小碎ふ初の嫁  
依言 且雪 限子 兵士 小舟

日 キハム

六九、樹屋も笑を評小口又梅室を虫  
七〇、春ののめる母掛り子の中封ド  
七一、来と子もお節を渡強く梅の春  
九二、もも花園に葉を子の割と根  
龜年 依言 蝶塚



冠り歌 風

七五、風風がうらむ程中を架砂岩小書  
八十、風岩波小のま元二役兼及の重  
正名 第二

日 和

七五、和つる摺竹一斗毒りト柳麻の級  
七十、和つる和と風と押ス大根の壺  
池産 舟士

杉垣歌 遠見

六五、耐る又陽を日の満るを筑波  
九五、を出歌又世書も正六ツ支度  
菱父 限子

樹月庵竺三萬棋

杉垣歌 シナカ

六五、汐剥砂があがり子の囁く舌  
七十、志まの書何より秋葉小鏡又と  
舟士 深住  
百抽 仕舞重なる札も子の強さ意地  
依雪

日 キハム

七五、利よ一ッ壺を後小むら酒  
七五、と意ふか怪か古産を蒸か 醴  
舟士 且雪  
八十、来よ子もか靴を後強く梅の春  
池産 一鳥  
八五、樹屋も笑と神小口入梅室を出て  
龜年

冠り歌 風



六五、風呂敷の目元ニ夕景の重

第二

日 和

六、和らるる小より心の中と嫁世  
六、和回と喚キ付く夜合も待つと産  
六、和らるる巻巻も子強イ子

重洗  
低子  
深住

杉山歌 遠見

六、咄し小笑見朋衆のきこ  
七、其居咄しも嫁えくきこ  
九、款遠イ巻山程不見の眉  
九、晝をくお持世を足せ延せり子

十九  
泉工  
里久  
蝶喰

十五

### 谷泉庵早聴撰

杉山歌 三十一

五、支交交運ありの道と門トど  
五、仕舞をあるれも子の強き地  
八、其居小夜苗葉舞も習ふ交

池産  
依雪  
一泉

日 キハム

六、其粉のち萩妻上戸狗かけ  
六、樹屋も笑み神小田又福字を  
八、ゆけはきく後きれの子の昔の  
九、来は子もお前を渡り梅の

名工  
龜年  
正名  
池産



百袖まきのあつと叫も机向ふまき 第二

冠り歌 風

六、風借も津川水際の上場等 十九

七、風呂敷を身もふまのうらハツ下り 且雪

七、風味ハ折ハ流る事この子の結髪 山井

和 日

六、和国の奥巴小産どる 女 二

七、和ろうそく巻息とまのづよの子 深住

折返歌 喜ん

六、喜出歌見世書も正六ツ支度 民子

十六

九、お侍さまの由是とてとせむる友 盃洗

盃洗楽伴

九、風の子と退くこゝろあゝ妻火鉢 池産

九、又くこゝろあゝ給教をふ妻も遠 一 泉

百袖 多のせく戸張り索目の句替へ 且雪

正泉楽伴

九、新選ひまき山姥ふつら眉 里久

九、時の口の口籠か合式の花賣人 小舟

百袖 風の来ぬやうぬの押入歌をの詠 舟士

六合目



井双庵笑魯撰

杉白歌 ツクタ

卒、序ふたれはよのちもさうふり湯  
六共、つらきくさるる若き「ま」の子  
七、妻のあつたれ五乳す適の客  
八、爪突くくしの歌後次を歌自根  
百抽、妻の支ふふ子、連が抱く居ん

路 燦  
鈴 糸  
池 雀  
津 深  
路 燦

日 ユヤセ

幸、ゆきくさの上星及も落の運  
幸、湯豆腐心内吞と腹の支も能く

小 舟  
津 深

冠り歌 位

幸、徑々門下の松も抜ふる布衣草也  
幸、徑居島世意取も 嵐 壘

池 雀  
鈴 糸

杉白歌 日女

八、山手水の白半袴板の波一全  
九、そのと繋せる女浪田角と揺る葉子

全  
池 雀

樹月庵坐萬撰

杉白歌 ツクタ

七、妻も出ふ心な乳花通の衣  
幸、連しも又をぐるは酒小田甫中

池 雀  
燦 燦



百袖 妻の支度小子の連しが抱て居て 跡 蝶

日 ヌウセ

半、雪見八妙とよみなり 世界別 龜年 仙 蝶

冠り歌 任

卒、佐勢承知骨ツきり立列ノ子 十九

日 吉

辛、吉尤右を穿り里うろ其居無 且 洗

辛、吉燈紙添の香ふんと落揚 且 雪

六、吉名物と一里安ひぢ酒太り 佐 雪

九、吉燈紙を穿り玉眼より佐屬 仙 蝶

杉辺歌 日 女

九、三ツ目ツも垣子の運ぶおの跡 跡 蝶

### 谷泉庵早聴撰

杉句歌 ヲクタ

六、妻蠟燭の光をえりて立のち好 弁 士

九、洗手も糸屑も糸帯を立掛て 盥 洗

百袖 妻の支度小子の連しが抱て居て 跡 蝶

日 ヌウセ

七、せり上げのじろ双紙を穿負の形 此 蝶



八、夕ヶけのうとく 智小資筋冷入 正倉

冠り歌 任

九、任居養あさう 家見の志を土産 仙煉

月 吉

十、吉野多田を重子とて祝の子 深任

十一、吉野の美と凡て清く考辨 箱二

折込歌 田子

十二、そのと紫せるも紙口角揺る葉子 池産

十三、うらうらひの影へ上り小吹出る葉 龜年

十四、抱く鴛口三ッ口子たりのこも 福安

十九

歌煉樂祥

十五、釣出るともくご 和痛へ頼む打 龜年

十六、お託口ッごま 猶自家み並仕交 煉煉

十七、妻のハッ口肌ッ子の志をあんよ アンモ

煉煉樂祥

十八、任居深川 船あも深き土地 箱二

十九、連しあもむれ送今 妙利足袋あが 福安

百抽 妻もも 楽ふたあ 辰日も 其の目 アンモ

七合目

井双庵笑真撰



折句歌 マツナ

六、曲テて蓋妻梳あるこのとそへ  
七、男漱小橋妻長幕小唇ど及  
八、まゝと舞と妻口先へ染あせる身  
猿里 橋 赤

日 ホセツ

五、つらつらおせんかき産と妻の世多  
五十六、やさの暮せよ初も福小月娘光  
九、つらり毛襠一泪も妻の情  
百抽 坊の持衣の挑灯で妻行湯  
小舟 山 林 泉 工

冠り歌 向

五、向のよを子に給ふおむを計  
猿 地

日 久

五、久とるふ二も又雪のちをれ雪  
且 雪

折句歌 六花

五、毎ふ六新花ふ子も掃り形り  
六、六地荒中をなむせむも花川戸  
七、六奇仙掃く山巻の久えくく  
全 全 菱 父

樹木庵山萬栞

折句歌 マツナ

五、まゝの毎と妻口先へ染あせる身  
猿 里



百拙 又うらまへて多や位をちやん辞と

アソモ

日 ホセツ

辛、わろ疎の世事、船霜の書情

跡 疎

辛、坊の精脊の挑灯と書行湯

泉 工

辛、ホイとまのせと不記り書返

福 家

全、秘よく世事の厚く書文し者

山 林

冠り歌 向

六、向山の松檜のあめの若芳人

米 久

七、向山とて松檜のあめの若芳人

根 子

九、向山とて松檜のあめの若芳人

福 家

六一

日 久

七、父とて松檜の中は赤く刺さる

且 雪

九、父とて松檜の中は赤く刺さる

山 林

杉山歌 六花

五、父とて松檜の中は赤く刺さる

菱 父

谷泉庵早聴撰

杉山歌 マツチ

五、曲とて蓋書統あるこのと是

化 産

七、曲とて蓋書統あるこのと是

猿 里

七、曲とて蓋書統あるこのと是

龜 年



日歌

ホセツ

辛、空ふ中小曲して脊ふ付る墨  
八十、やどまろ口舌快吹くつ手歌墨  
百抽 坊の持ッ脊の挑灯が書新湯

蝶蜂  
十九  
泉工

冠り歌

向

辛、向心依狼積八客の苦勞人  
半五、向うう来る輝の日の子の逢ひ  
九十、向うう来る只今と帰る書

栄々  
アシモ  
福安

日

久

五、久けゆく道行物の夢小結

若二

お込歌

六花

辛、梅忌の香ささりお六小籠を巻く  
九五、六門倉の又巻花只袋履ス小結

蝶蜂  
豊流

限子楽評

九五、六門倉の又巻花只袋履ス小結  
九十、巻紙の位目と細心粘の巻く  
百抽 遠ふ目うつり書神へ巻せて書

全  
龜年  
十九

若二楽評

九五、曲ケて蓋書統あつこのこと書く  
九十、鞠の巻も書子ふさつむ地内らち

沈産  
小島



百袖 細糸の責まを履安ふつゝ心肝 拾契

八會目

井双庵笑尊撰

杉句歌 アサカ

六五 あんよ酸妻口さくさびきさく 十丸

八十一 着るもも毎入の疾の空のいふ 柏枝

百袖 素心のをさく湯小房を里の舟 仙標

曰 かしや

六十一 梅小福妻を植耐も堀の形り 墨洗

六五 女日妙はも口ッ乳小樽の編 季友

六三

冠り歌 中

六十一 望つぬ決ふ後句く世云の歌 十丸

六十一 望後も妻井戸堀ぐ流き米 兵士

六十一 望らるる妻刺たし世一の 急年

曰 音

六五 音もざざりと声拂う格女と跡 墨洗

杉句歌 光上

六五 光る空跡ふ二載ふ上る風 松秀

六五 光る横極情のそくく上ッ強り 若二



樹月庵竺萬撰

杉勺歌 アササク

五、あくびおそと乳母とイと操ササクの身

菱父

七、荒る身も無入の夜の空のひび

柏枝

八、あしあけの朝の起つこと遠くは師

表乐

九、海籬ミの奥小眠も血書ミの能授ミを虫

跡煉

日 ハシヤ

辛、掃り船の風風と上をアと

蝶蝶

十、帚先キの心シをくたつらうと子

路煉

冠り歌 び

卒、夢耳ミをくたつと子の彼のシサ

正泉

百袖ヒの初穂ヒをくたつと別ヒの津師ヒの来ヒテ

柏枝

日 音

八、音ヒをくたつと海ヒのヒとくたつと肉

深住

杉勺歌 光上

六、江連の上延表の光ヒを市ヒ名ヒり

龜年

九、光ヒを横ヒ按ヒ結ヒのヒをくたつと上ヒり強ヒり

第一

谷泉庵早聴撰

杉勺歌 アササク

五、明床ヒ小ヒ経ヒ魚ヒ存ヒのヒ子

季友



七、洗（いそぎ）の糸（いと）は新（あら）の糸（いと）より小（ち）さうりや黄楊（わうやう）  
百抽（ひゃくしゆ） 葉（は）ももも（もも）毎（まい）入（い）の秋（あき）の雲（うみ）心（こころ）ひび

日 小の城

六、さる麻（あし）の目（め）がしを程（ほど）の款（くわん）焼（や）るあがし  
六、五 帯（おビ）先（さき）はたてをたおしうるさの子  
六、五 母（はは）の叫（こゑ）を仕（つか）へる（を）ぶかゆと痛（いた）き

冠り歌 空

六、半、波（なみ）初（はつ）穂（ほ）たまた別（わか）れぬ河（か）津（つ）師（し）の来（き）て

日 音

六、半、音（ね）もさざりいと号（ごう）あつた牙（が）と鱒（ま）  
七、五 登（のぼ）洗（あら）

折込歌 光上

五、半、棟上（むねがみ）の藤（ふじ）とか絡（か）ふ光（ひかり）る 残（のこ）  
五、半、光（ひかり）る横（よこ）板（い）柱（ば）のそと上（うへ）の張（はり）り  
五、半、新（あら）光（ひかり）の原（はら）上（うへ）へ糸（いと）をたて 尾（び）  
五、半、泉（い）二（に）

知水楽辞

五、半、光（ひかり）る廊（らう）下（か）ら小（ち）らちをのこ上（うへ）へ糸（いと）を  
九、半、合（あ）く一（ひと）傘（かさ）を横（よこ）板（い）柱（ば）もくく（もく）の宵（よ）  
百抽（ひゃくしゆ） 葉（は）ももも（もも）白（しろ）魚（い）狭（さ）むをく（く）心（こころ）ひ

源任楽辞

九、半、師（し）の新（あら）も糸（いと）を紙（かみ）小（ち）光（ひかり）る上（うへ）田（で）流（りゅう）  
七、五 猿（さる）里（り） 仙（せん）里（り） 李（り）友（ゆう） 柏（かしわ）枝（えだ）



九千 廿日妙 汝も口ッ乳小 侍と 嫁 季友  
百抽 案九のきき湯小 庭より 星の 母 仙 僚

○アサ物

扇若 庭炎へ 喜ふ 組 井 筒 早 聴

跡 庭の 庭炎 青小 庭を 膝 竺 萬

明く 今朝 提り 色 桶小 庭より 庭 庭 矢 魯

催主 元 場 藏

江戸見立 八景 終



